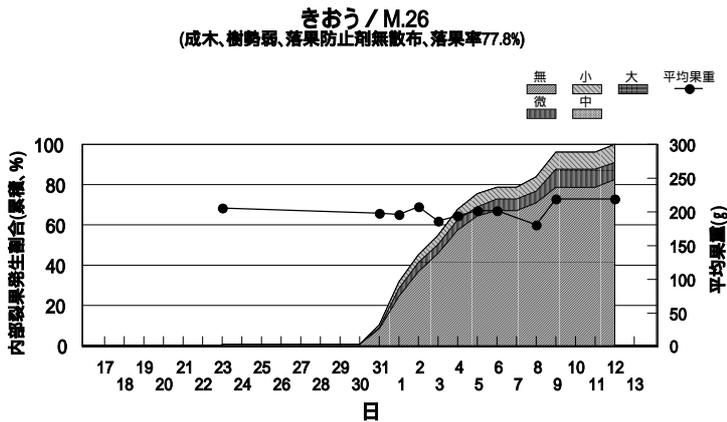


## りんご「きおう」に対するジクロルクロップ液剤の落果防止効果

本県のりんごオリジナル品種「きおう」は食味良好、省力型品種として栽培面積が増加しているが、条件により果梗基部に内部裂果が生じ、また収穫前落果を伴うことがある。この収穫前落果に対して、ジクロルクロップ液剤（商品名：ストップール液剤）の1,000倍、収穫開始予定日15日前散布で高い落果防止効果が認められる。



「きおう」の収穫前落果は内部裂果の発生で助長される傾向が強いが、年により正常果でも落果する場合があるので、落果防止剤は必ず散布する。

図1 落果に占める内部裂果の発生割合（平成11年）

散布時期は、収穫開始予定日の15日前（平年の暦日、県中部基準で8月15～20日）の方が良い。

散布回数は1回で十分な落果防止効果があり、濃度は1,000倍の方が効果が高い。

表1 「きおう」に対するジクロルクロップ液剤の落果防止効果

年度	区名	散布時期	希釈倍数	累積落果率 (%)
平成7年	3週間前散布	(8/17)	1,000倍	2.2
	2週間前散布	(8/25)	1,000倍	1.6
	対照無処理区		-	5.0
平成9年	25日前散布	(8/21)	1,000倍	2.0
	"	( " )	1,500倍	6.1
	対照無処理区		-	74.3

表2 ジクロルクロップ液剤が「きおう」の果実品質に与える影響（平成9年）

区名	調査果重 (g)	硬度 (lb)	糖度 (%)	酸度 (g/100ml)	地色 (指数)	ヨード反応 (指数)
25日前散布 (8/21) 1,000倍	309.4	14.1	14.8	0.40	3.2	0.9
" ( " ) 1,500倍	334.5	13.6	14.4	0.40	2.8	1.4
対照無処理区	363.5	14.4	15.2	0.46	1.9	1.3

ジクロルクロップ液剤の散布により熟期促進作用の見られることがあるので、収穫遅れにならないようにする。